

わ

が

街

わ

が

故

郷

NSKプレジジョン(株)前橋精機プラントと 前橋市周辺のご紹介

1. NSKプレジジョン(株)前橋精機プラント の紹介

NSKプレジジョン(株)前橋精機プラントは、精機製品のボールねじ、モノキャリア、サポートユニットを製造する工場で、敷地内には精機製品の開発・設計を担当する精機技術センターがあり、精機事業の中核的な事業所であります。

沿革としては、日本精工(株)全額出資で北日本精工(株)として1961年に群馬県前橋市にて操業を開始し、同年日本精工藤沢工場より精密ボールねじの製造設備が移管されました。1966年に日本精工に吸収合併され日本精工前橋工場となり、2002年に日本精工から分社して、NSKプレジジョン(株)前橋精機プラントとなり、現在に至っております。



NSKプレジジョン(株)前橋精機プラント

2. 群馬県前橋市について

—水と緑と詩のまち・前橋—

前橋市は群馬県の県庁所在地であり、関東地方の北西部で東京からは約100キロの位置にあります。

前橋市の北部には上毛三山の一つ赤城山があり、豊かな自然に囲まれております。上毛三山(赤城山、榛名山、妙義山)は地域の人たちからとても親しまれる存在であり、小学校の運動会などでは、紅組・白組の対抗ではなく、「赤城団」「榛名団」「妙義団」と山の名前の団に分かれて、競い合い楽しんでおります。

市の中には「坂東太郎」(関東地方の古称の坂東にある第一の川の意味)利根川が流れております。江戸時代には江戸への物流の要となる反面、度重なる氾濫で当時の城主が城(厩橋城)を放棄して川越に城を移すということもありました。

また前橋市は日本の詩の歴史において革命をもたらした詩集「月に吼える」などを発表した萩原朔太郎の出身地です。萩原朔太郎は市のさまざまな名所や施設の詩を作っており、昔はこんなだったのか、と感心することがたびたびあります。

3. 前橋市の歴史について

前橋市の歴史は古く、市の中には古墳時代の遺跡がいくつもあります。奈良時代となり律令体制が整備されると、国府が設置され政治の中心的な地となり、国分寺や山王廃寺も設置され仏教文化が華開きます。平安時代には平将門に攻め込まれ国印が奪われることがあり、国司が勢力を失ったことで、国内の神社を合祀する総社神社が生まれました。

1400年代には厩橋城が築かれ、戦国時代には上杉・武田・北条氏の攻防の的となり、1567年の北条氏と武田氏の攻防で旧市街地が焼き払われ、市街地が現在の位置に変わったと言われております。

徳川時代になって酒井氏が川越より移り厩橋城主となり、9代約150年城主を務めました。城主が松平氏に代わった後に利根川の洪水により城地が決壊し、松平氏は厩橋城を放棄して川越に移り、約100年の間廃城の状態となりました。

江戸時代には藩主の奨励でさまざまな特産品が作られ、その一つとして製糸業が盛んになっていきました。幕末から明治時代には、上州の製糸の秀逸性から、良質の生糸に「まえばし」という代名詞も与えられたとのことです。

群馬県（上州）を表現する言葉として「かかあ天下とからっ風」が有名ですが、かかあ天下は単に女性が家庭で権力を握っていたということではなく、江戸時代から盛んになっていった養蚕・製糸・織物などでは手先の器用な女性が労働に適し、養蚕日本一の称号を得る中で、女性が家庭経済の担い手であったことから、それを称えるためかかあ天下という言葉を使っていた、と聞いております。

4. 前橋市の紹介

(1)前橋市のイベント

前橋市の三つのまつりと花火大会を紹介します。

①初市まつり

初市まつりは毎年1月の頭に開催され（今年 は1月9日）、江戸時代から続く伝統ある行事です。毎月4と9の日に開かれた日用雑貨や生糸の市が起源と言われ、現在では、またの名を「だるま市」と呼んでいます。本町にある八幡宮境内での「だるま供養」から始まります。境内から「市神様」の渡御（とぎょ）がスタートし、木遣りや神輿、大獅子や華龍太鼓がにぎやかに続きます。



前橋初市まつり

②七夕まつり

七夕まつりは毎年7月上旬に開催されます。昭和26年から前橋全市をあげて始められたまつりです。多くの商店街が参加し、それぞれ鮮や



前橋七夕まつり

かな七夕飾りで埋まります。露店もたくさん出て、大変にぎやかです。七夕飾りコンクールのほか多彩なイベントがくり広げられ、市民の人気を集めています。

③前橋まつり

前橋まつりは毎年10月上旬に開催されます。戦後に復興祭として始まったものが、昭和24年に商工祭となり、昭和34年に市民総参加のまつりとして前橋まつりと改められ、町内会、企業・団体・学校など市民挙げて参加する祭りです。

前橋だんべえ踊りという「前橋音頭」をアレンジし振り付けをした踊りを、市の木であるイチョウをモチーフとした鳴子を鳴らしながら、各団体がそろいの衣装を着て、幼稚園の子供からお年寄りまで参加して踊ります。



前橋まつり

④前橋花火大会

前橋の花火大会は毎年8月上旬に開催されます。利根川河川敷・大渡橋周辺から、スターマイン、ナイアガラなど約15,000発の打ち上げ花火



前橋花火大会

や仕掛け花火が次々と打ち上げられ、夜空を七色の大きな大輪で彩り、夏の風物詩として親しまれています。利根川にかかる大渡橋を使った長さ約400mにもなる「虹のナイアガラ」は必見です。

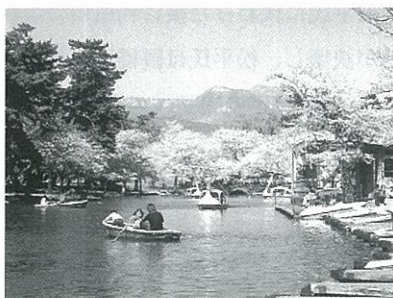
(2)前橋市の見所

前橋市の観光スポットを三つ紹介します。

①敷島公園（前橋市敷島町）

前橋市街地の北側に位置する敷島公園は、大正11年に官有地の払い下げを受けて公園となり、園内には利根川の洪水を防ぐために植えられた3000本近い松林があり、市民の憩いの場として親しまれております。

園内には、萩原朔太郎の生家の一部を移した萩原朔太郎記念館、前橋の生糸の歴史を物語る蚕糸記念館、600種7000本のばらが咲き誇るばら園などがあります。



敷島公園



ばら園

②赤城南面千本桜（前橋市苗ヶ島町）

前橋市を代表する桜の名所です。約2 kmにわ

たる市道の両側に約1000本の桜が咲き誇り、桜のトンネルを作り出します。またこの地区は標高の高低差があるため、順次開花していくことで、桜を長く楽しむことができます。千本桜まつりが開催され、期間中はライトアップにより夜桜が楽しめます。



赤城南面千本桜

③不動大滝（前橋市粕川町）

落差が50メートルある赤城山で一番大きな滝です。初夏は緑や花で彩られ、冬には滝が氷結するなど四季折々でさまざまな表情を見せます。（最近では温暖化のため滝が氷結することはないようですが。）

近辺には「赤城の山も今宵限り…」の芝居のセリフが有名な国定忠治が隠れ住んだといわれる岩穴や、江戸時代まで修験者の修行する場所であった滝沢不動尊もあります。



不動大滝

前橋市の周辺には、全国的に有名な伊香保温泉のほか、日帰りで入浴できる温泉がたくさんあります。豊かな自然と歴史のある前橋市へ、ご家族やお友達とぜひ遊びにいらしてはいかがでしょうか。

（NSKプレジジョン(株)経営本部
総務人事室 川合 慎治）